

# 体育科基本的指導過程

はじめに

- ①あらかじめ危険箇所など点検し、安全に配慮している。
- ②運動にふさわしい服装にする。体育着、ゼッケンはズボンにしまっている。髪の毛の長い児童は、しっかりと結んである。赤白帽子をかぶっている。
- ③集合や整列等を整然と行っている。

導入

- ④児童が見通しをもつことができるよう、単元の指導計画や授業の流れが示されている。
- ⑤学習のめあてや授業の流れを視覚的・聴覚的に確認し、見通しをもたせている。児童に明確に示されている。(提示の工夫)
- ⑥主運動に繋がる効果的な補助運動がされている。
- ⑦見学者にもカードの記入をさせるなど、役割を決めて学習に参加させている。

活動①

- ⑧児童全体が見える位置に立っている。(全体を見ながら個の動きを見られる動線を考える)
- ⑨課題解決のために有効な場の設定がされている。
- ⑩課題解決のために有効な学習資料(ICT活用等)が提示されている。
- ⑪どこで何を行うのかを児童が理解している。(掲示資料の活用)
- ⑫授業の途中で、課題解決のために有効な指導(言葉かけ)を行っている。

振り返り

- ⑬教え合いや学び合いを生み出す工夫(言語活動の充実)がなされている。教え合いの際には、見るポイントを示している。
- ⑭児童が自他の動きを比べ、客観的に自分の動きを振り返っている。
- ⑮上手にできた理由、できなかった理由や、もっと楽しむにはどうするかを全体に考えさせている。
- ⑯児童一人一人が「活動②」での目標をもっている。

活動②

- ⑰振り返りを踏まえた活動の工夫をしている。

まとめ

- ⑱協力して片付けを行えている。
- ⑲整理運動では使った部位をほぐし、けがや体調を崩した児童がいないか確認している。
- ⑳学習のめあてに正対した振り返り(自己評価/相互評価)を行い、次時への意欲付けをしている。

## ☆☆目標提示の工夫☆☆

「何ができるようになればいいのか」見通しをもたせましょう。

### ①児童の配置

→板書が見えて先生の声が聞こえる位置に座らせる。屋外の場合太陽の位置に注意し児童がまぶしくない向きに並ばせましょう。

### ②動きポイントの師範

→先生自身がやって見せることで、視覚的に分かりやすくしたり、児童のつまずきのポイントが実感できたりします。

### ③学習カードの活用

→学習カードに目標や活動内容、場の設定、動きのポイントを入れると、児童がいつでも確認できます。

## ☆☆活動の場やルールの工夫☆☆

全ての児童が目標を達成するために工夫が必要です。

### ①課題に応じた場所の設定

→苦手な子にも意欲的に取り組めるよう、段階に応じた場を設定しましょう。

### ②楽しさを味わえるルール

→例えば、「ゴールする楽しさが味わえるように、ゴールを2つから4つにしたり、ボールを2つにしたりすること」などがあります。

### ③全員が参加できるルール

→苦手な子も意欲を高められるよう、「初めての得点は2点」や「ボールがフェアゾーンに飛ぶまで、何度もバットを振れる」など児童の実態に合わせてルールを工夫しましょう。

## ☆☆振り返り(話し合い活動)の工夫☆☆

自分や集団の課題を友達と解決できるようにしましょう。

### ①複数の練習方法の提示

→自己の課題解決に向けて複数の練習場所を提示し、児童が選べるようにします。

### ②グループで作戦ボード・ホワイトボードの活用

→課題を共有しやすくしたり、動きを可視化したりすることで話し合いを効果的に行わせることができます。

### ③学習カードの活用

→めあてが「できたか」「なぜできたか」「次はどうするか」など具体的に振り返らせることで、次の課題を明確にすることができます。

□にチェックを付けて、自分の指導を振り返ってみてください。自己申告の時期までの目標があるといいです。

(例) 6月までに 55%、10月までに 65%、2月までに 80%



① **目的** 体育の授業や体育的行事を通して、子供たちの健康・体力を保持増進していく力と態度を育成していくことを目的として「拝二小授業カスタンダード体育編」を改訂した。

## ② 今年度に関わる4つの重点教育

### ①地域企業(栗田工業ラグビー部)の活用

実体験の充実。選手たちと実際に交流することで、ラグビーに対する興味・関心を高めたり、スポーツの精神を学んだりする。また、実際の技術指導等も行っていただく。



### ②昭島観光まちづくり協会の活用

昭島市は、日本クリケット協会が定める重点拠点地域の一つである。「ベースボール型」でクリケットの授業を行っている。また、クラブ活動では日本クリケット協会派遣のコーチや、U19日本代表の選手も来ている。今後も、これらの人材を活用していくのみならず、グローバルスポーツとしての特性を生かした国際交流にもつなげていく。



### ①昨年度の課題「反復横跳び」

昨年度の体力テストの結果から、秋期から1年生を除く全ての学年で、春から秋にかけて反復横跳びの校内の平均記録が低下した。反復横跳びは「素早さ」や「タイミング」を要する種目である。

反復横跳びをはじめとした運動能力の向上について、「コーディネーショントレーニング」を体育の授業で実施していく。状況に応じて、頭で判断し、筋肉や骨などを動かすまでの神経回路をスムーズに動かせるようにする。

※今年度、本校は東京都指定の「コーディネーショントレーニング地域拠点校」です。

# 課題

# 地域

# 時世

# 特色

### ①ラジオ体操

- ・毎朝体を動かすことにより、始業前に体を目覚めさせ、頭をすっきりさせた状態で、学習に取り組める。
- ・体全身の筋肉や関節を使用し、体の柔軟性を伸長するだけでなく、よりよい姿勢の矯正、有酸素運動としての効果も期待できる。

### ②校庭の芝生

- ・芝生は、熱を吸収したり、砂や埃などを軽減したりする健康上の一定の効果がある。
- ・砂に比べて、転倒時のけがのリスクが低く、児童が安心して運動できる。
- ・生活科、理科、市民科などの環境教材として、利用、管理・維持も期待できる。



### ①オリンピック・パラリンピック教育

- ・「オリンピック・パラリンピック学習読本」や、「オリンピック・パラリンピック学習ノート」を利用して、精神や競技について知る。
- ・外部人材を活用した、パラリンピック競技（ブラインドサッカー・ゴールボール）の体験を通じて、社会の多様性や障がい者の工夫に気付かせる。

### ②ICT活用

- ・視覚的に動きを把握させ、児童の体育への興味・関心を高める。
- ・改善点の把握や、技能の向上の実感を視覚的に把握させ、技能を高める。
- ・タブレットPCで、自他の動きを確認したり、比較したりさせ、思考力・判断力を高める。

